

おくやみ 米山文明先生逝去

米山文明先生（本学会顧問、医学博士）

前理事長・米山文明先生は、去る3月31日、享年90才にて永眠されました。謹しんでお悔みを申し上げます。

先生は、昭和52年より当学会理事として、また平成13年に理事長に就任され、四期12年間に亘り、当学会の為にご尽力下さり、音声生理学の立場でご指導賜りました。

又、耳鼻咽喉科のドクターとして、内外の声楽家に名医として信頼されていらっしゃいました。

4月6日、目黒区碑文谷のサレジオ教会に於きまして、ご遺族のご意志により、近親者のみによるご葬儀が行われました。

ご報告と共に、故 米山文明先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

会長 末 芳枝



米山先生追悼

多くの声楽家や俳優さんなどに信頼されている医師で、自ら研究所を運営されている発声専門の研究者でもあり、また、学校や研究所などで教える立場でもあり、たくさんの本やDVDなどをお作りになった執筆者でもあり、ドイツの研究者と協力して呼吸法メソッドを体系化された人物でもある米山文明先生は、何とお忙しく90年を生きてこられたのだろうか！ もともと八面六臂のご活躍をされるよう神様に能力を与えられたとは言え、瞬時の閑もなく働きながら、各方面からの相談に、いつもにこにここと気さくに対応してこられた先生のお姿は、いつ見ても頭の下がる思いをしてきた。

先生とは、20年くらい前、ビデオ（後にDVDとして再発）「声の不思議」「声の発育」でお仕事をさせていただいた。また先生のご紹介とご翻訳で、呼吸法の著作「美しい響きの飛翔」の日本語版を2014年春に出させていただいたが、お忙しい先生が、文章の校正はもちろん、差し込んである譜面まで読まれている事にも、大変驚いた。発声学会の理事長を離れた後、理論書の執筆もお考え頂いていた時だけに、残念というほか、言葉が見当たらない。

神様が先生に初めての休暇をお与えくださったと考え、俗世の無念を超えた安らかな世界におられる先生に、心からのお礼を申し上げます。

音楽之友社
代表取締役社長
堀内 久美雄

お知らせ

「米山文明先生 お別れの会」

日時：6月7日（日）16：30～18：30

会場：シェラトン都ホテル東京（港区白金台）

会費：10000円

後援：呼吸と発声研究所 日本声楽発声学会 ロータリークラブ

*発声学会からの参加者受付

事務局へメールかFAXでご連絡下さい。

FAX 045-952-3813 e-mail: jars@jars-voice.com

*供花はお受けしますが、ご香典は辞退いたします。



第99回例会にて野村四郎先生に謝辞を述べる米山先生

会員のみなさまへ

会長 末芳枝

会員の皆様、お健やかに過ごしていらっしゃいますか。

日本列島に桜が咲き、春を告げてくれています。3月14日、北陸新幹線は長野と金沢間が開業となり、東京から金沢間は2時間28分で運行される事になりました。会員の輪が広がる事と思います。

当学会は2015年(平成27年度)の活動が始まります。

5月例会は、5月31日(日)東京芸大(第六ホール)で、三人の方々の口述発表、午後はシュトゥットガルトの著名な合唱指揮者フリーダー・ベルニウス氏をお招きして、合唱指導の公開レッスンを、そして「現役声楽家の演奏とお話」では、テノールの大野徹也氏をお迎えする事になって居ります。

夏季研修会は、8月17日(月)と18日(火)の二日間を計画し、作曲家の木下牧子女史による、ご自身の作品についてのお話と演奏の助言を賜る事に決定致しました。日本の歌による「歌の集い」のコンサートや、「音声生理学と声楽家の実践的立場からの繋がり」を話し合い、発声研究と演奏に即、役立てたいと考えて居ります。又、楽しく歌うドイツ歌曲研究も企画致しました。皆々様奮ってレッスンにもご参加下さいますようお願い致して居ります。

2014年11月29日の学会設立50周年記念・第100回例会・沖縄支部大会併催にご参加いただけなかった会員の方々のために、写真を掲載致しました。どうぞご覧ください。

2014年、当学会設立50周年の三つの祝賀行事は、理事の先生方そして、それぞれの関係者の皆様のご尽力、ご協力を得て、成功裡に終了致しました。もう一度改めてご報告申し上げます。心からの感謝と御礼を申し上げます。有難うございました。

第100回(11月)例会報告

本学会第100回例会が沖縄支部第1回との併催で、2014年11月29日に行われました。会場は首里城の敷地内に在ります沖縄県立芸術大学の奏楽堂ホールと奏楽堂講義室です。当日、東京をはじめとする遠方より、また沖縄県内からご参加下さいました皆さまに心から感謝申し上げます。

末芳枝会長のご挨拶で例会が幕開けし、最初に琉球伝統芸能の古典音楽と舞踊が美しく華やかに優雅に披露され、ホールは琉球固有の素晴らしい、たゆみのある独特の雰囲気にもまれ、本学会第100回例会・沖縄支部第1回例会への祝意に満たされました。演者は沖縄県立芸術大学教員の方々と琉球伝統芸能を代表する方々(仲嶺慎吾・山内昌也・島袋君子・比嘉いずみ・阿嘉修、他)です。

琉球の悠久の感覚を満喫した後直ぐに引き続いて、研究発表が奏楽堂講義室で行われました。発表者は、琉球伝統芸能の仲嶺慎吾氏、声楽家テノールの泉恵得氏、カウンターテノールの上杉清仁氏、ソプラノの豊田喜代美氏、音声生理学の西浦美佐子氏、小林武夫氏、故米山文明氏(当日不参加)です。時間も超過しての質疑応答が大変に活発に行われ、

講義室内が熱気に包まれました。沖縄県立芸術大学学長の比嘉康春氏(琉球古典音楽)が沖縄支部会員として参加なされ、熱心にメモをとられていた姿が心に焼きついています。

引き続きホールでオペラの六重唱(豊田喜代美・知念利津子・宮城美幸・五郎部俊朗・仲本博貴・西條智之)が力強く歌われ、爆発的な生命力がホール中にみなぎりしました。そして沖縄民謡が本学会員(川上勝功・小川昌文・相川修一・豊田肇、他)と沖縄支部会員(泉恵得・大城治・山内昌也・仲本博貴、他)との合唱で歌われ、最後には会場内全ての参加者の皆さまと「芭蕉布」の大合唱の響きの中で、例会を終了いたしました。

沖縄の青い空に輝く朱色の首里城に見守られつつ、本学会第100回例会(併催・沖縄支部第1回例会)が開催されましたことを、感謝と共にご報告させていただきます。ありがとうございます。

日本声楽発声学会理事 沖縄支部長 豊田喜代美



開幕 「かぎやて風」



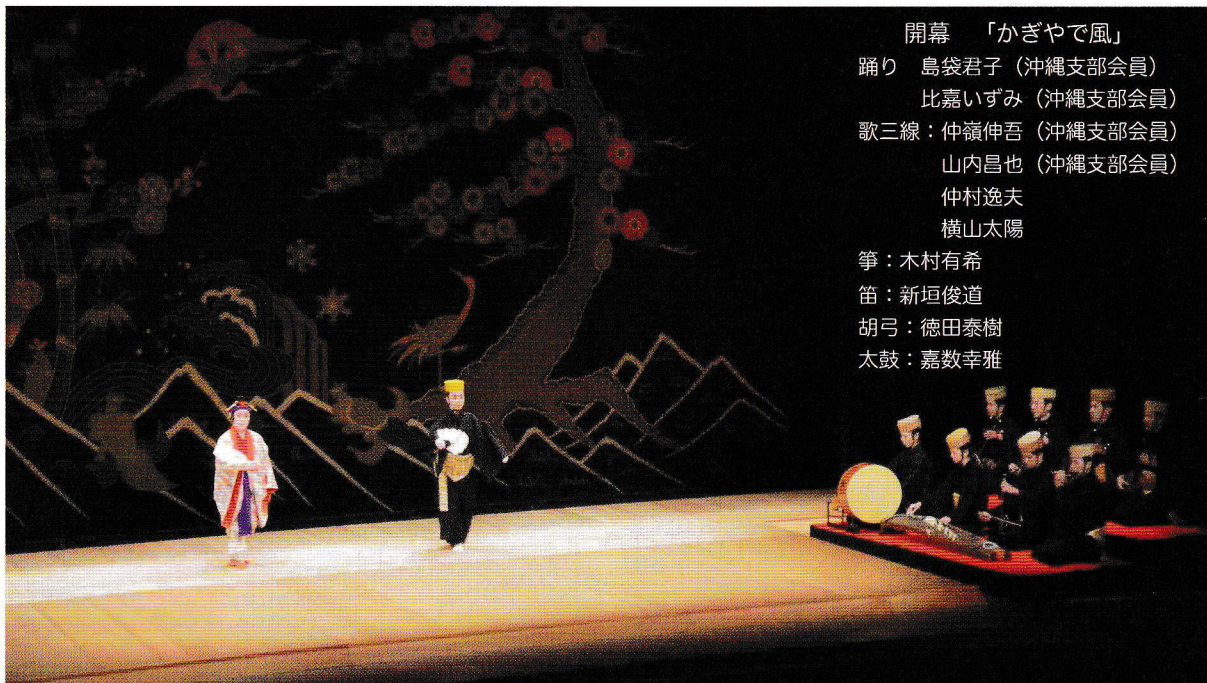
琉球古典音楽独唱

「赤田風節」 箏：木村有希 歌三線：仲嶺伸吾



琉球古典音楽独唱

「下出し述懐」 歌三線：山内昌也 笛：新垣俊道



開幕 「かぎやで風」
 踊り 島袋君子（沖縄支部会員）
 比嘉いずみ（沖縄支部会員）
 歌三線：仲嶺伸吾（沖縄支部会員）
 山内昌也（沖縄支部会員）
 仲村逸夫
 横山太陽
 箏：木村有希
 笛：新垣俊道
 胡弓：徳田泰樹
 太鼓：嘉数幸雅



琉球古典音楽独唱



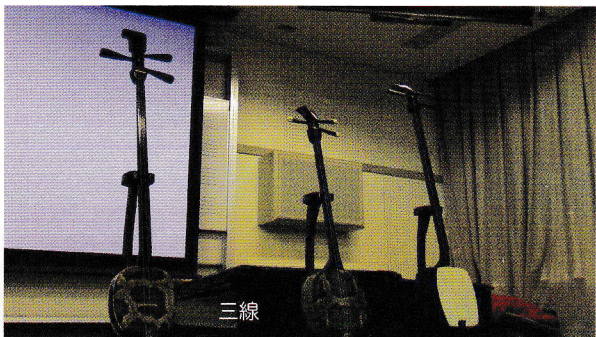
ベルカントで歌う琉球民謡の演奏 泉 恵侍



組踊「万歳敵討」 後段
 立方 謝名の子：阿嘉修 慶雲：伊藝武士



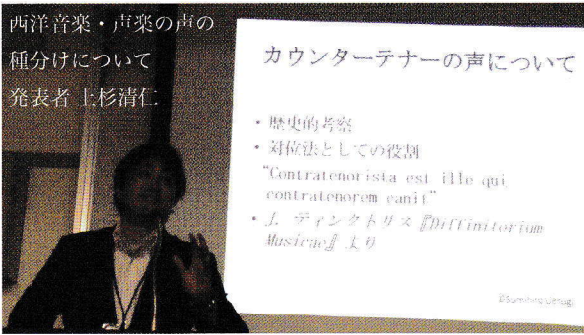
琉球古典音楽「仲風節」の演奏 仲嶺伸吾



三線



西洋音楽・声楽の声の種分けについて
 発表者 豊田喜代美



本学会の更なる発展のために、例会の地方開催が懸案となっていました。第100回記念ということで、沖縄支部の多大なるご協力のもと、沖縄支部大会併催という形でついに地方開催実現を見ました。記念大会だが遠方故に参加が困難だったという声もあり、今回多くの頁で写真で当日の様子をご覧いただく事にしました。詳細な内容は学会誌第6号に掲載されます。ご要望によっては当日の映像の上映会も検討します。事務局長 小川昌文



日本語歌唱の発語と表現

山崎英明

声楽家・オペラ歌手の日本語が聴き取りにくいという話をよく聞くことがある。器楽とは異なり、声楽は音楽芸術の中で唯一明確なメッセージ（歌詞）を持っているため、歌詞が聴き取れないことは楽器としての価値を著しく下げってしまうことになる。



新国立劇場の柿落し公演は團伊玖磨氏によるオペラ『建-TAKERU-』であったが、日本語によるオペラにも関わらず日本語字幕公演だったことは当時話題になった。吉田秀和氏が1幕で会場を去ったという話は特に有名である。同作品はリブレットが合理的に旋律に載っているとは言い難く、音楽が窮屈にさえ感じられる。これは作曲家が日本語特有のイントネーションに合わせて旋律を付けていないことが原因の1つだが、歌い手の発語に対する勉強不足によって歌詞が聴き取れないことも大きな原因となっていると考えられる。

言葉は子音と母音で構成されている。日本語はひらがな1字の中に両方が含まれており、(例 さ=sa) 子音と母音を区別する発音習慣がない。母音の訓練は口の開き方で母音を区別する「音節歌唱」を用いる場合が多いが、実際には舌の位置によって決定されている。

山田実氏によれば、主要5母音のうち最も倍音を多く含む母音は「エ/e/」であり、最も美しく響く母音であるという。これはイタリア語の約27%に含まれており使用頻度が最も多い。また、最も倍音が少ない母音は「ウ/u/」である。これはイタリア語のわずか5%のみで、使用頻度が極端に少ない。一方、日本語では「ア/a/」が一番多く、全体の約37%に含まれている。「エ/e/」は他の母音と比べて極端に少なく、わずか7%しかない。「ア/a/」だけで構成される言葉はあるものの(例 さわやかな朝だ)、「エ/e/」のみで構成される文章は存在しない。子音においては、イタリア語は「R」が最も多く、次いで「L」。これらは日本人が最も苦手としている子音と言われている。日本語では「N」、次に「K」が最も多い子音であるが、両方ともイタリア語の使用頻度上位5位までには入っていない。

このように、日本語は舌を硬直させるため、舌根が喉を圧迫しやすい言葉である。そのため、日本語の特性を考慮した訓練が不可欠である。子音には長い子音、短い子音、有声子音、無声子音の区別があり、構音筋群は舌・唇・顎・軟口蓋、歯・歯茎・硬口蓋などがある。明瞭な発音のためには可動である舌・唇・顎・軟口蓋それぞれの訓練が必要となる。

日本人は自国の文化に対して鈍感であると言われている。欧米文化はとても魅力的であるが、欧米文化至上主義といったいわば文化的バイアスとも言える価値観の進行を筆者は危惧している。日本語の正

確な発語・発声は日本人にしかできないものであり、最も“上手く”歌えるのは日本語を母語とする日本人にほかならない。

外国人が日本人の声楽演奏をどのように感じるのかわからないが、“オペラのモノマネ”や“オペラごっこ”と受け取られることのないように、日本人にしかできない表現、自分にしかできない音楽をこれからも模索し続け、声楽家としての“武器”を多く持ち合わせて欲しいと切に思う。

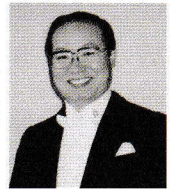
当会は、「声楽、声楽発声、その指導法に関する研究協議を通して、我が国の声楽演奏と声楽教育に寄与し、音楽文化の学術振興に資すること(会則第4条)」を目的としている。その達成を目指し、研究を重ねている団体の一員としての願いである。

ベルカントを巡る

No.5 「中世～ルネサンスのベルカント」

河合孝夫

中世の時代、すでに「胸声」「中声」「頭声」など現代発声の基礎となる概念があった事を前回申し上げたが、その他にも現代の歌唱法の基となる概念を見つける事ができる。



中世からルネサンスにかけての音楽は、ほとんど合唱であると言ってよい。器楽曲はまだ十分発達しておらず、独唱に類する吟遊詩人、ジョングルもいたが、ここでテーマとする歌唱法や音楽理論に関しては、教会や宮廷の聖歌隊が正統的であった。

歴史に名を残した教育機関としては、1346年ヴェネツィアで創設され、後年ヴィヴァルディの活躍で有名になったOspedale della Pietàや1531年にナポリで創設され、ナポリ音楽院の元になるConservatorio Maria di Loretoがある。どちらの機関も孤児や恵まれない子供達を収容し、音楽教育を施し教会の合唱団員として育てた。当時の有名な作曲家達はこうした教育機関で音楽教育を受け、優れた歌手であり作曲家となっていたのである。ちなみにConservatorioは、イタリア語でコンセルヴァトリオ、フランス語ではコンセルヴァトワールとなり音楽院と訳される名前であり、スコラ・カントルムとともに現代の音楽大学の基となるものである。

かつて、ベルカントという言葉が中世～ルネサンスの時代に使われたという記事を何かで読み、ベルカントと中世の合唱が結びつかず不思議に思った事があった。

当時の作曲法は対位法である。対位法は、それぞれの声部が独立して旋律を歌いながらも、声部全体として和声的調和を保つ作曲法である。例えば通模倣様式の場合、テーマを歌い始めた声部を模倣する声部は、その旋律に調和しやすい完全5度や完全4度、音程を上下にずらして始まって歌を進める事が多くなる(そうすると、5度調、4度調と同様の関係になり、全く同じ旋律を歌っても#かりひとつの臨時記号ですむ)。しかし、複数のパートが歌を進

めるとき、必然的に他の和音を響かす事となり、和声の進行を考慮した作曲や演奏(中世では即興的に和声を考えて演奏をした)をしなければならなくなる。

そこで、この時代のベルカントとは、独立した旋律を歌いながらも和声の響きを考慮して歌う事ではないかと考えた。つまり、合唱の旋律の歌い方に対して法と和声の論理性と法則性を見つけ、美しく歌う事をベルカントと言ったのではないかと考えたのである。こうして私の疑問は解決した(当然、他の考え方もあると思う。是非投稿して頂きたい)。

もう少し具体的に説明してみよう。誰もが知っているように、歌はフレーズを作る事で歌となる。強引だが、これを現代の和声で説明すると、トニック〜ドミナント〜トニックとなる。一般的に、フレーズはトニックで始まりドミナントで頂点を迎えてトニックで解決する。この和声の変化を旋律の抑揚として歌い進める事で、歌は美しい歌唱法belcantoとなる。これは、合唱でも独唱でも同じである。

さて、ここで重要なのは、果たして「私たちは和声の響きと進行を感じて歌っているのか？」である。この時代は、合唱の響きの中で和声を感じながら歌う事を指導されたが、現代は歌唱と和声を分離して教育するため、ほとんどの歌手が和声感のない歌唱となる。ところが、優れた歌手の歌唱には和声感があるのである。

こんな事があった。ある時、シューベルトの「Der Fluss」をドイツ人の歌手とドイツで活躍する日本人の歌手で聞いた。どちらも素晴らしい歌唱であったが、日本人の歌手が平均律で歌ったのに対し、ドイツ人の歌手は純正律で転調のたびに音律をその調の音律に合わせて歌っていた。どちらが表情に富んでいたかは言うまでもない。

ティンクトリス(15世紀の音楽理論家)の音楽用語定義集の『音楽家』の項目に次のように書いてある。

『音楽家と単なる歌手には大きな違いがある。音楽家は音楽の響きの条理をよくわきまえている。単なる歌手はただ歌うだけ…』

今後の予定

平成27年 夏季研修会

日時：第1日 8月17日(月) 13:00~17:15

第2日 8月18日(火) 10:00~16:00

内容：第1日

A 呼吸と横隔膜(仮題)シンボジウム等予定

B 「歌の集い」(出演者公募)

第2日

C 「ドイツ歌曲を歌う楽しみ」(公開レッスン)

講師 末芳枝

D 「木下牧子声楽作品公開レッスン」

講師 木下牧子、豊田喜代美(ソロ、合唱アンサンブル)

募集：

「歌の集い」[10] ■参加者(独唱/合唱)の募集

2015年、当学会における「歌の集い」も第10回目を迎えることとなりました。ここ数年夏季研修会の中のプログラムの中でこの「集い」が開催されてまいりまし

たが、本年も以下のような日程で研修会に組み込まれることとなりました。今回は日本語による歌曲、合唱曲をテーマとし、皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げております。

2015年8月17日(月) 午後3時~

日本福音ルーテル東京教会(新大久保)

タイトル<日本の歌曲-1900年代~現在>

■ソロと合唱で5~6組。一組の演奏時間は20分ほど。

参加希望者、合唱団は演奏委員 淡野弓子

yumiko@musicapoetica.jpあて演奏者、伴奏者の氏名、演奏曲目、演奏時間をご連絡下さい。

■応募締切 5月10日(日)

■参加者・各合唱団はチケット：全自由 2000円 の販売にご協力をお願いします。

演奏委員 豊田喜代美、山本富美、淡野弓子

「末芳枝ドイツ歌曲公開レッスン」募集要項

■日程：8月18日午前10時~12時

■場所：日本福音ルーテル東京教会(新大久保)

■講師：末芳枝

■応募要領

○募集人数：4名

○公開レッスン所要時間：一枠30分

○受講料：会員4,000円、非会員6,000円

○聴講料：2,000円

○内容

・ドイツ歌曲(任意の作曲家の作品2曲提出。こちらで1曲指定する。)

・ピアノ伴奏者：各自同伴のこと。困難な場合は当学会で紹介します。(伴奏料は3000円)

■受講希望者は下記(1)~(4)を記して、5月31日までに下記に連絡ください。

Eメール：jars@jars-voice.com 当学会事務局

ファックス：045-952-3813 当学会事務局

(1)氏名、住所、連絡先(携帯電話・メールアドレスなど)、声種

(2)演奏する曲目の作曲家、題名(ドイツ語及び日本語)、作品番号

(3)ピアノ伴奏者の氏名

(4)200字までの略歴

■4枠の受講生を講師が選抜し、結果を応募者全員にご連絡します。

「木下牧子声楽作品公開レッスン」募集要項

■日程：8月18日午後1時~午後4時

■場所：日本福音ルーテル東京教会(新大久保)

■講師：木下牧子・豊田喜代美

■応募要領

○募集人数：3枠(ソロ2名、声楽アンサンブル1組)

○公開レッスン所要時間：一枠50分 ※各枠間に10分の休憩を設定する。

○受講料：会員4,000円、非会員6,000円 ※ソロ伴奏者料として各人につき3,000円

○聴講料：2,000円

○内容

対象：ソロ及び声楽アンサンブル

・課題曲1曲と自由曲を併せた2曲以上を10分~15分間演奏する。

【課題曲】下記の各課題曲から1曲選曲する。

【自由曲】各課題曲以外の木下作品から自由に選曲する。

・ピアノ伴奏者：ソロは公式伴奏者(尾高遵子氏)で行う。合わせは、8月18日午前3日間に2時間程度、更に希望者は7月に2時間程度行う。声楽アンサンブルはピアニストを独自に用意のこと。

■受講希望者は下記(1)~(4)を記して、5月10日までに下記に連絡ください。

Eメール：mgkiyomitoiyoda@gmail.com 豊田喜代美

ファックス：045-952-3813 当学会事務局

- (1)氏名、住所、連絡先(携帯電話・メールアドレスなど)、声種
 (2)演奏する課題曲及び自由曲の題名と各演奏時間
 (3)声楽アンサンブルはピアノ伴奏者の氏名
 (4)200字までの略歴

サビーネ・ザイデルA-T-T声楽公開講座
 3月29日(日) 米山文明呼吸と発声研究所

CD案内

・淡野弓子

J・S・バッハ《マタイ受難曲》(全曲)
 淡野弓子指揮
 ムジカ・ポエティカ MPL-0001-3

コンサート案内

Musica poetica 2015初夏

岡本かの子『狂童女の戀』<人形・歌・朗読の夕べ>
 [ユトロ]とともに
 朗読:坂本長利 人形[ユトロ]操演:黒谷都
 メゾソプラノ:淡野弓子
 ピアノ/チェンバロ/作曲:武久源造
 2015年5月1日(金)19時開演 三鷹市芸術文化センター「星のホール」
 一般自由席:4000円 学生自由席:2500円
 主催:ムシカ・ポエティカ
 T.03-3970-0585 F.03-3998-5238
 チケット予約/マネジメント:菊田音楽事務所
 T/F 042-394-0543
 e-mail:yumiko@musicapoetica.jp
 www.musicapoetica.jp

フリーダー・ベルニウス指揮
 シュトゥットガルト室内合唱団

～日本ツアースケジュール～
 5.25(月) 18:00-20:30
 フリーダー・ベルニウス公開セミナー 熊本県立劇場
 5.26(火) 19:00 開演
 シュトゥットガルト室内合唱団演奏会 熊本県立劇場
 [入場料/指定:4000円、自由:3000円]
 5.27(水) 19:00-21:00
 フリーダー・ベルニウス公開セミナー 高岡文化ホール
 5.28(木) 19:00 開演
 シュトゥットガルト室内合唱団演奏会 高岡文化ホール
 [入場料/一般:3500円、学生:1000円]
 5.29(金) 18:30-20:30
 フリーダー・ベルニウス公開セミナー 神奈川県立音楽堂
 ①横浜雙葉学園聖歌隊
 Mendelssohn: Veni Domine
 ②マルベリーチェンバロコワイア
 Palestrina: Super flumina Babylonis
 [入場料/一般:1000円、高校生以下:無料]
 申込は神奈川県立音楽堂 (TEL 045-263-2567)
 5.30(土) 15:00 開演
 シュトゥットガルト室内合唱団演奏会 神奈川県立音楽堂
 [入場料/一般:5000円、学生(24歳以下):2000円]
 申込はチケット神奈川 (TEL 0570-015-415)

泉 恵得 六大歌曲集連続演奏会

5 ベートーヴェン:「遙かなる恋人に寄す」
 シューマン:「詩人の恋」----- 他
 日時:2015年5月24日(日) 午後3:30 開演
 ホール:鳥ピアノセンター (tel. 098-933-5932)
 ピアノ:安富祖貴子
 会費:一般 ¥2,500(前売り) ¥3,000(当日)
 6 信時潔「沙羅」
 日時:2015年7月5日(日) 午後2:00 開演
 ホール:浦添市でだこ大ホール
 ピアノ:眞喜志麻紀
 会費:一般 ¥2,000(前売り) ¥2,500(当日)
 主催:沖縄日伊オペラ 共催:沖縄日伊協会
 後援:琉球新報社、沖縄タイムズ、日本声楽発声学会
 お問い合わせ:080-2791-3545/098-931-0373
 プレイガイド:リウボウ、島ピアノ、普及原楽器

会員の動向

*ホームページにはカラー写真等詳細情報があります。

実施報告

<レクイエムの集い>2014

フェリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ
 《挽歌》混声4部ア・カペラOp.116
 《夕べの祈りの歌》男声3部/Vc&Kb Op.121 他
 合唱:ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京
 指揮:淡野太郎
 鈴木ユリイカ 詩 江端伸昭 作曲
 女声3部合唱とピアノのためのコンチェルト
 《海のヴァイオリンがきこえる》(2002)
 合唱:アンサンブル『海のヴァイオリン』
 指揮:淡野弓子
 ピアノ:江端伸昭
 11月14日(金) 三鷹市芸術センター「風のホール」

泉 恵得 六大歌曲集連続演奏会

1 シューベルト「美しき水車小屋の娘」
 日時:2014年11月3日(祝)
 ホール:鳥ピアノセンター(沖縄市)
 2 シューベルト「冬の旅」
 日時:2015年1月11日(祝)
 ホール:パレット市民劇場(那覇市)
 3 シューベルト「冬の旅」
 日時:2015年2月26日(木)
 ホール:沖縄市民劇場「あしびなー」
 4 シューベルト「白鳥の歌」
 日時:2015年4月

うたがあるから みんながいるから

卒寿を迎えた大中恩から ありがとうメグめぐコール
 2月15日(日) 古賀政男記念館けやきホール 相川修一
 (Ten)、児玉時子(Sop)、西村暁子(女声合唱)会員出演 メグ
 めぐコール団員が大中恩作品のソロ作品を中心に歌う会

NAOコーラスグループ 第18回演奏会

3月28日(土)ギャラクシיתי 西新井文化ホール
 ベートーヴェン第9、大中恩「五色桜」オケ版
 大中恩「五色桜」は近藤直子会員指揮

事務局から

会費納入のお願い

今年度年会費を例会申し込み切の期日を目安に納入をお願いします。

また、過年度の年会費未納の方は早急にお振込下さいませよう、お願いいたします。通信欄には、該当年度をご記入下さい。25年度、26年度の納入状況を確認されたい場合にはその旨メール、もしくはFAXでご連絡下さい。

お振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00170-0-119920

加入者名 日本声楽発声学会

連絡先について

郵送物の不着が発生しています。転居等での連絡先の変更はお早めに事務局まで連絡ください。

第101回例会について

今回は終日第6ホールでの開催です。藝大の入館方法が変更になり第6ホールに新設の入り口から入ることになります。例会案内の構内図、会場の案内板に従ってご入場下さい。

正会員、臨時会員共に当日の参加受付も可能ですが、受付での確認に時間がかかります。事務局を円滑に遂行するため、ご面倒でも事前受付にご協力をお願いいたします。

昼食のお申し込み等、詳細につきましては、例会案内をご覧ください。

事務局だより

事務局次長 永井和子

学会通信第30号をお届けいたします。2014年度は本発声学会創立50周年を迎え、第99回5月例会に併せて、祝賀会を賑わしく開催いたしました(学会通信第28号に詳細記載)。また、記念演奏会として「うたの集い」シリーズ柴田南雄作曲の合唱曲「宇宙について」を演奏(第29号に詳細記載)、そして第100回例会を沖縄にて、沖縄県立芸術大学のご好意を得て、沖縄支部設立を兼ね、同大学内奏楽堂にて、沖縄の第一級の専門家による民族芸術をプログラムに満載し、芸術度の高い例会を催す等、成功裡に創立50周年の行事を滞りなく終えることが出来ました。会員の皆さまのご協力を心から感謝申し上げます。この50周年を機に本学会は心機一転、新鋭な研究団体としてますます発展することを願い、理事一同心を引き締めております。引き続き会員の皆さまの忌憚ないご意見とご協力をお願いいたします。尚、山崎英明会員と河合孝夫理事の投稿をいただきました。会員の皆さまのご投稿をお待ちしております。



編集後記

幹事 相川 修一

4月2日の臨時理事会において米山先生の訃報を受け、急遽紙面を変更しました。

学会通信のことでなく学会誌のことなのですが一つ報告を。米山先生からのご指名で私が野村四郎先生の特別講演の文字起こしをしました。当初の約束では、本来の学会誌の締め切りである1月半ばに間に合うように12月中に米山先生はもとより野村先生のチェックも経て完成させる予定でした。ですが、本学会の他の仕事や私事により先送りさせていただいていました。

日本伝統芸能については不案内でしたので、専門用語と固有名詞の確認などで作業は難航…。2月にソロで歌う本番があったり、体調を崩したりと作業はおします。ですが、28日から29日の昼頃までは徹夜で連続作業しました。なぜか、すぐに届けなければという気持ちが心を占めたのです。米山先生に原稿が届いたのは30日(と思われれます)、お亡くなりになったのが31日…。なぜもつとはやくお届けできなかったのか…。よく間に合わせてくれたという声にも励まされましたが、後悔の念にかられています。

文字起こしの全てをご覧いただくことは出来ませんが、米山先生ご自身の発言の部分を中心に半分位チェックを入れられていたと、ご心痛のなかにもかかわらず章子先生からお知らせいただきました。闘病のさなか、即座にチェックを入れて下さった米山先生の責任感にはただただ頭が下がる思いです。野村先生、米山先生の直しを反映させた原稿を編集委員会に提出しました。米山先生が学会にお出ましになった最後となった(なってしまった)場面についてのまとめになります。

この場をお借りして会員の皆様にいぎさつをご報告いたしますとともに、米山先生のご冥福をお祈り申し上げます。

2015年4月30日

日本声楽発声学会 学会通信 第30号

発行人 末 芳枝

編集人 相川 修一

発行 日本声楽発声学会事務局

〒241-0002 神奈川県横浜市

旭区上白根1-5-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

e-mail :jars@jars-voice.com

HP: <http://www.jars-voice.com>